

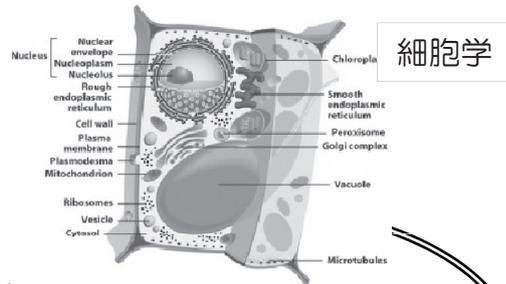
**獣医解剖学研究室**  
 Laboratory of Veterinary Anatomy and Cell Biology  
 (スタッフ 山本欣郎教授、中牟田信明准教授)  
 \*研究室公開: 3号館414号室 (10:00-12:00) 夏のみ  
 3号館1階リフレッシュルーム

獣医解剖学研究室では、主に解剖学と組織学を担当し、動物の解剖の教育を担当しています。

生体は、「分子-細胞-組織-器官-個体」という階層構造を有しています。わたしたちは、動物の生命を維持する階層のしくみを考えながら、細胞・個体の構造と機能の研究を行っています。

生体の調節機構の解明を大きなテーマと捉え、環境適応に関する分子機構、感覚器や神経組織における情報伝達調節機構の解明に取り組んでいます。

また、脊椎動物が進化する中で、嗅覚系（感覚器である嗅覚器と一次中枢である嗅球）がいかに変化してきたのか、様々な動物の比較によって解明することを目指しています。



細胞学

Figure 1-16 Cell and Molecular Biology, 4th Edition, John Wiley & Sons

**獣医解剖学**

組織学

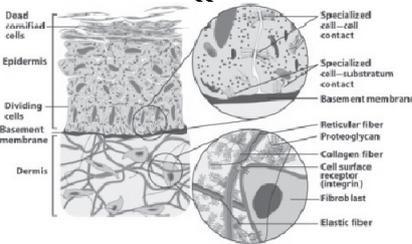
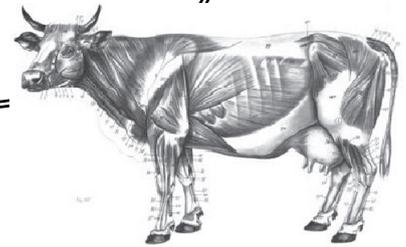


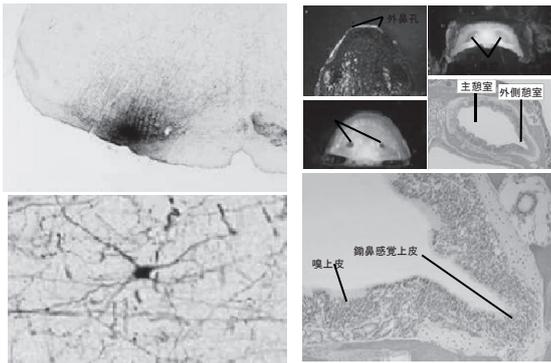
Figure 7-1 Cell and Molecular Biology, 4th Edition, John Wiley & Sons



肉眼解剖学

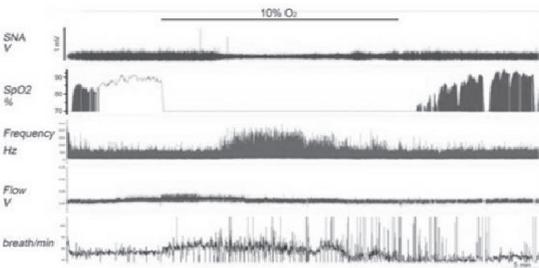
研究テーマ

1. 末梢神経系の感覚装置と感覚調節
2. 生体の環境適応機構
3. 嗅覚器の系統発生学と機能解明

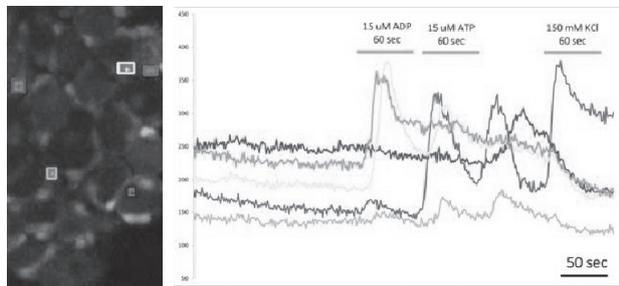


トレーサーによる神経回路の解析

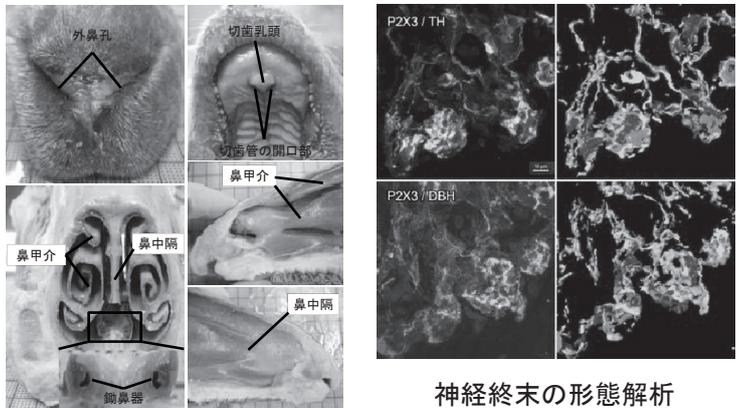
イモリの嗅覚器に見られる2種類の感覚上皮



交感神経活動の低酸素による変化



末梢神経節のカルシウムイメージング



神経終末の形態解析

鋤鼻器は切歯管によって口腔と連絡している(ヒツジ)

研究室公開ではいろいろな顕微鏡と動物の骨を紹介します。